研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-141	A-154	19-005	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Big Five Personality Traits and Alcohol, Nicotine, Cannabis, and Gambling Disorder Comorbidity.
性格 5 因子特性とアルコール、ニコチン、大麻、及びギャンブル依存症の併存

執筆者

Dash GF, Slutske WS, Martin NG, Statham DJ, Agrawal A, Lynskey MT.

掲載誌

Psychol Addict Behav. 2019 Jun;33(4):420-429. doi: 10.1037/adb0000468.

キーワード	PMID
ビッグ 5 理論（性格 5 因子特性論）、ギャンブル依存症、物質使用障害	31094546

要　旨

目的：

米国精神医学会（APA）による精神障害の診断・統計マニュアル第 5 版（以下、DSM–5）では、ギャンブル依存症がアルコール、ニコチン、大麻依存症と同じ「物質関連障害と嗜癖性障害」に分類された。そこで、ギャンブル依存症とこれら 3 種の依存症との併存状況、共通の性格特性、男女差等について性格 5 因子特性論をもとに検討することを目的とした。

方法：

オーストラリア双生児研究の対象者のうち、心理学的調査と性格 5 因子特性検査に回答した 3,785 人（うち男性 1,365 人、平均年齢 32 歳）を対象とし、双生児間の類似性を考慮した統計学的解析を行った。

結果：

対象者の 54%が少なくとも 1 種の依存症歴を持ち、アルコール依存症歴が最も多く、男性の 56%女性の 29%に見られた。対象者の 23%が 2 種以上の依存症の合併歴を持っていた。ギャンブル依存症者のうち、男性で 43 人中 40 人、女性で 23 人中 18 人は他の依存症と合併していた。5 つの性格特性である N:神経症傾向(Neuroticism)、E:外向性(Extraversion)、O:開放性(Openness to experience) 、A:協調性(Agreeableness) 、C:統制性(Conscientiousness) のうち、N の高さ、A の低さ、C の低さが 4 つの依存症と関連しており、特筆すべき男女差は認められなかった。N の高さ、A の低さ、C の低さは、男女ともに 2 種、3 種の依存症の併存と関連していた。

結論：

オーストラリアの男女約 4,000 人の調査において、神経症傾向、協調性の低さ、統制性の低さがギャンブル依存症と、その他の物質使用障害の併発に関連することが示唆された。